

服飾文化史による「温故知新」のお手伝い

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 生活デザイン学科 准教授 横田 尚美
研究分野 : 服飾文化史、西洋服装史、日本洋装史

ロンドンの人気ファッションデザイナー、ヴィヴィアン・ウェストウッドは、「過去において人間が何を成し遂げたかを理解し、それを今日のものと比較するよう努めるべきです。… そこから、未来がどんなものか少しずつ見えてくるかもしれません。」（「装苑」2004年4月号）と語っています。

服装史や日本民俗学の研究ノウハウが、オリジナルなファッションデザインや繊維産業界の活性、また地域の魅力の再発見のために貢献できることを願います。

■パリのファッションビジネスの歴史研究



1873年 通販カタログ

当時の百貨店のビジネスの工夫は、現在でもヒントになります。限定販売、ダブルネーム、プライベートブランドなど19世紀後半からの手法です。研究資料である当時の通販カタログは、デザインソースの宝庫でもあります。

■東京コレクションの取材と寄稿



2019年11月1日号

2018年10月より、年に2回、東京コレクションを取材し、「アパレル工業新聞」紙に、寄稿しています。

トレンドを探るのではなく、時代の変化を追っています。昨今は、どのブランドもSDGsを念頭に服づくりをしています。

■社会人の方々へのフィードバック

放送大学や滋賀大学教育学部の教員免許更新講習の講師として、衣生活の現状や問題点について、社会人の方々と考えて頂く機会を持っています。要望があれば、是非、様々な場で多くの方々との問題意識を共有させて頂きたいと考えています。

■滋賀県犬上郡多賀町衣生活資料の調査



「山行きボッコ

2018年秋に、大学のある彦根市に隣接する多賀町の山間のあるお宅から、沢山の衣料が見つかりました。これらは、海外で「BORO」と呼ばれ、高い評価を得ています。裏に継が当てられ何度も直された服、端切れや紐など、暮らしぶりかる貴重な資料です。学生とともに調査に取り組んでいます。

<特許・共同研究等の状況>

国際日本文化研究センター 「運動」としての大衆文化 共同研究員（2019年～）